株式会社システナ

証券コード：2317

Link People for Happiness

# 第41期 株主通信

2022年4月1日～2023年3月31日

systena

# システナの歩み

ヘンミエンジニアリング株式会社を設立、翌年 **株式会社システムプロ** に商号変更

**株式会社システナ**

**1983**
組込みソフトの受託開発を生業として創業

**1988**
日本初の対戦型オンラインゲームの開発に成功

**1992**
Web 系・オープン系のシステム開発開始

**1996**
移動体端末ソフト開発部隊を編成。PHS 開発、PDC 開発

**1997**
オンラインゲームサイトを構築、サービスを開始

**2000**
携帯電話向けコンテンツ開発開始

**2002**
ナスダックジャパンに上場

**2004**
東京証券取引所市場第二部に上場

**2005**
東京証券取引所市場第一部に指定

**2010**
カテナ株式会社を合併

スマホ向けゲーム開発を行うGaYaを設立

**2011**
通信デバイス開発を行うIDYの株式取得

**2012**
Cloudstepの提供開始

日本初の『TIZEN™』を搭載したタブレットの開発に成功

**2013**
最新技術やサービスを事業化するSystena America Inc.をカリフォルニア州に設立

**2014**
オフショア開発を行うSystena Vietnam Co.,Ltd.をベトナムに設立

**2015**
第一次中期経営計画目標
売上高560億円、営業利益56億円へ

第一次中期経営計画は全ての目標を達成

**2017**
StrongKey, Inc.の株式取得

**2018**
ONE Tech, Inc.をテキサス州に設立

**2019**
第二次中期経営計画目標
売上高1,010億円、営業利益152億円へ

**2019**
神戸イノベーションラボを設置

MONETコンソーシアムに参画

名古屋事業所を設置

**2020**
川崎デザインスタジオを設置

**2021**
松山イノベーションラボを設置

**2022**
株式会社ミンガル設立

京都イノベーションラボ開所

オリジナルサービスの提供

IT機器の販売・IT環境の構築

システム運用・保守・IT活用・ITサポート

金融系システム開発

移動体端末ソフトウェアの仕様策定・開発・品質検証

組込み系ファームウェア、業務用アプリケーションソフトの開発

1983 | 1997 | 2002 | 2005 | 2010 | 2012 | 2014 | 2017 | 2019 | 2023

# 価値創造を支える多彩な事業

## ソリューションデザイン事業

自動運転・車載システム、通信事業者サービス、社会インフラ関連システム、スマートフォンやWebアプリなどの開発、ロボット・人工知能・IoTを使った組込み開発など各種システム、サービスの企画から設計・開発・検証・運用までを一貫してサポートしています。

長年にわたるモバイル端末の開発で培った豊富なノウハウと実績を基に、モビリティやWebサービスの業務経験、DX推進のPMO、AIなどの要素技術を駆使した付加価値の高いトータルソリューションを提供しています。

## フレームワークデザイン事業

金融分野(銀行、生損保)で培った基幹システムの開発ノウハウを、公共系・産業系に展開して幅広い業種向けに業務アプリケーションの開発支援を行っています。基幹系システムの開発・運用業務はもとより、クラウド活用を中心にインフラ構築・設計まで様々なサービスを提供しています。

DX案件の更なる拡大、システム再構築に向けた、基幹系システム開発能力の需要増加、システム開発に対するワンストップ対応可能なベンダーへのニーズ拡大に対応しています。

## ITサービス事業

システムやネットワークの運用・保守・監視、ヘルプデスク・ユーザーサポート、データ入力、大量出力、モバイル端末アプリおよびインターネットコンテンツの開発支援・品質評価など、ITに関する様々なアウトソーシングサービスを提供しています。

DX需要増に対してデジタル人材が不足する中、企業のDX化を推進するITアウトソーシングサービスを提供しています。

## ビジネスソリューション事業

サーバー、パソコン、周辺機器、ソフトウェアなどのIT関連商品を企業向けに販売しています。また、基盤構築、仮想化など、IT機器に関連した最新のサービスやプロダクト導入サービス(RPA・BIツールなど)の企画・開発・提供をしています。

大きな市場(クラウドやオンプレミス、DX)の中心で仕事をしていることに強みを持っています。

## クラウド事業

自社サービス『Canbus./キャンバスドット』、『Cloudstep』、『Web Shelter』の提供および『Google Workspace』、『Microsoft 365』などクラウド型サービスの提供・導入支援を行っています。

CRM(顧客管理)や採用管理、人材管理などリソース管理をはじめとする様々な業務をデータベース化し、データドリブンな業務を実現する『Canbus.』を提供しています。DXプラットフォームのCanbus.を基軸にDX化のPMOやITコンサルティング、システムインテグレーションの推進に強みを持っています。

## 海外事業

モバイル通信関連技術支援、開発・検証支援、各種ソリューションの提供、最新技術やサービスの動向調査および事業化を行っています。

## 投資育成事業

子会社(株式会社GaYa)を通じて、スマートフォン向けソーシャルゲームの企画・開発・提供を行っています。

代表取締役社長
三浦 賢治

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第41期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）における国内経済は、コロナ禍からの経済活動の正常化が進むなか、個人消費を中心にゆるやかな回復基調となりました。しかしながら、資源・原材料高による世界的なインフレに対応した各国中央銀行の急速な利上げにより、グローバルな景気後退への懸念も高まっております。

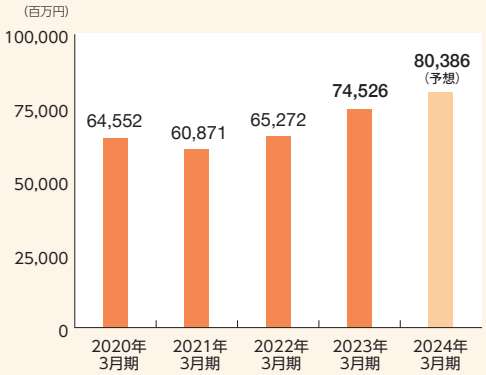
こうした状況のもと、当社では、引き続き2025年3月期を最終年度とする中期経営計画の推進に注力してまいりました。大方針としてデータ経営による生産性の向上を掲げ、戦略的に今後10年でもっとも伸びる分野に経営資源の迅速な投入を行い、2025年3月期における売上高1,010億円、営業利益152億円の達成に邁進してまいります。

当社は、創業来40年の歴史で培った経験、知見、ノウハウを活かしてこれからも時代の変化に柔軟に対応しながら、お客様、株主様のご期待に真摯にお応えしてまいります。

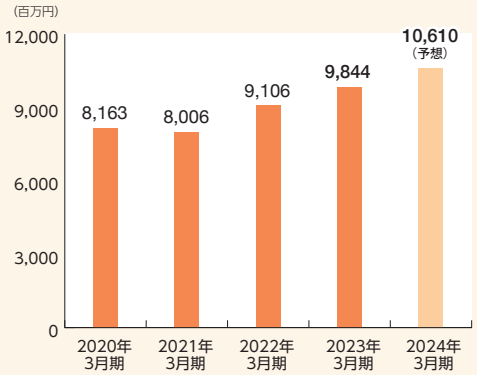
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 2023年3月期

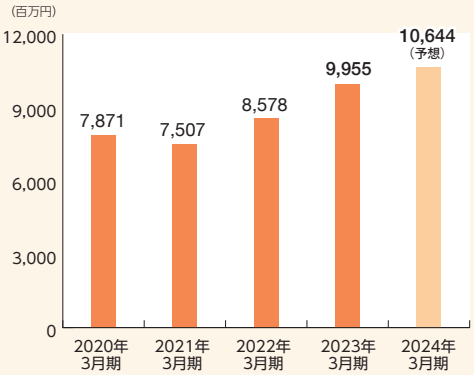
**売上高 74,526 百万円**



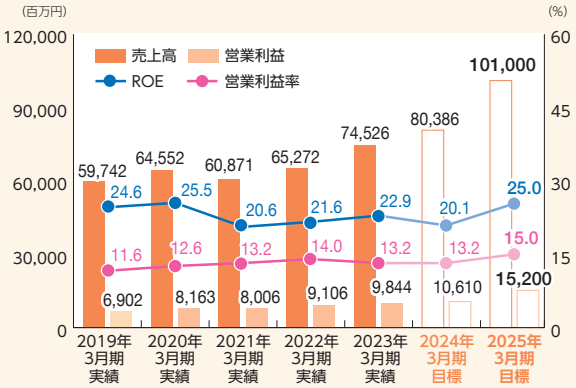

**営業利益 9,844 百万円**




**経常利益 9,955 百万円**




## 中期経営計画の進捗



代表取締役社長　三浦 賢治

# システナの価値創造への挑戦

## 時代の新たな潮流である自動運転・車載システムを中心に

システナは創業以来培ってきた技術力をもって、日本の経済界を牽引していく
トップランナーたる企業に、常に寄り添い伴走するプレイヤーでありたいと願っています。

**現在注力している自動運転・車載システムを取り巻く外部環境の変化について、お聞かせください。**

2023年3月期（前期）までは、全カーメーカーが、EVというひとつ大きな方向に向かっている状況でした。つまり、コアとなる潮流さえ押さえておけば施策として問題なかったのですが、現在では各社独自の事業展開を打ち出し差別化を図ってきています。そのため今後、ここに強みをもっており安泰であると漠然と考えている企業は、当社の属するIT業界においてもふるいにかけられると思います。むしろ、お客様が新たに策定された方向性や計画を明確に理解したうえで、しっかりと寄り添い一緒に真剣に開発に取り組むソフトウェアの開発パートナーだけが、今後存在価値を高め、求められていくとみています。そしてそのためには、お客様のコミュニティのなかにいるからこそ聞けるお客様の生の声にどれだけ真摯に応えられるかが非常に重要になると思っています。

**現在、自動車業界は、100年に1度の変革期を迎えていますが、この変化が御社のビジネスにどのようなチャンスをもたらすかをお聞かせください。**

私たちシステナは、2024年3月期（今期）、お客様に新たなテクノロジーを供給するフェーズに入ってきています。そのため、今期はお客様のニーズを十分に理解しキャッチアップするとともに、2年後、3年後の飛躍へ向けた布石をしっかりと打っていく非常に重要な一年になるとみています。自動車業界を中心に大きな変革期を迎えている今、ピンチであるとともに千載一遇のチャンスであると考え、積極的にお客様のニーズを取り込んでいく必要があると思っています。幸いなことに世の中の流れとしましては、システナが創業以来築いてきた知見と実績なくしては実現できないような案件が増えてきていますので、ますますシステナの守備範囲は広がり、発揮できる力も強くなっていくでしょう。現在、ITは急速なスピードをもって社会全体に浸透してきているとともに、電気、ガス、水道と並ぶインフラとなっており、ITは私たちの生活のなかで大きな比重を占め、かつ身近なものとなっています。車載システムに関してましても、車内ではすでにコックピット、インパネは様々な情報がすべてITにより提供されています。SNSにもつながりますし、音楽や動画を筆頭にすべての電子情報やエンターテインメントがメタバース空間として車の中に入ると予測されます。そのためにはオートパイロットが前提になります。こうした将来を視野に入れてカーメーカー各社は、車を一つのデバイスと位置づけたビジネスに転身しようとしています。そして今、各社カーメーカーは非常にエッジが効いているビジネスモデルを作ろうとしています。システナとしましても、カーメーカーの開発に寄り添い、新しいパーツやシステムの開発に一緒に取り組んでいます。また、一言でオートパイロットといってもただ自動で運転するだけではなく、そこには様々な要素が入ってきます。例えば、高齢の運転者さんが突然心筋梗塞で倒れ事故につながる危険性も想定し、その解決策を考えていかなければなりません。これら不意の事故を防ぐため、排出する二酸化炭素の量で運転者は寝ているか、瞬きの多さにより眠りに陥りそうであるかなど、人間工学とメディカルの技術が合わさった検知機能も、将来的には車載システムとして装備されていくとみています。

## 御社が創造する価値について、お聞かせください。

システナがプロダクツをもつようになったのは最近です。しかし、私たちはパッケージや技術力を使って、お客様の夢を実現していくお手伝いをすることに先鋭化しているのであって、自らメインキャストとして舞台に上がって何かをするようなことを目指しているのではありません。私たちはメインになって注目を浴びるより、むしろ世の中がさらに豊かな社会になるための“黒子”でよいと思っています。お客様と一緒により良い未来を切り開いていく、当社だけで社会を変えていくことは難しいですし、やはりお客様だけでも難しい、けれども力を合わせることで変えられると信じています。

私たちが駆使しているITテクノロジーとは、お客様が世の中に出したいと思っているサービスや製品を実現するためのコアテクノロジーです。その技術力をもって日本の経済界を牽引していくトップランナーである企業に、常に寄り添い伴走するプレイヤーでありたいと願っています。「ワンストップソリューション」という言葉はもはや色あせていますが、システナは開発の一部分だけを引き受ける、切り売りは絶対にしません。

そうしたなかで、新しい技術の開発に関わり社会をより良く、幸せにすることができるという喜びは、エンジニアにとって、かけがえのない賜物なのです。それは端的には、お客様やコンシューマーの方々が伝えてくださる心や気持ちの温かさであったりしますが、社員個々がお客様、ひいては社会全般に貢献していることを身をもって感じられる仕事を、引き続き積極的に創出していければと感じています。

## では、2024年3月期（今期）の経営目標についてお聞かせください。

中期経営計画の4年目にあたります今期は、引き続き増収増益を計画しています。投資は前期で一段落していますし、伸びている主力4事業をどこまでさらに伸ばすか、なかでもソリューションデザイン事業が今期の改革によりどこまでさらに数字を積み上げられるか、土台を作り上げられるかという一年になるとみています。それとともに、ビジネスの幅をさらに拡大していく一年にしたいと思っています。私たちは良いサービスや製品をつくっていると自負していますが、その営業いかんによって売上もまだまだ伸びるとみています。そのため、強い営業力をもつMJE株式会社と昨年5月に合弁会社株式会社ミンガルを設立しました。営業チャネルや得意先を広げることでさらなる伸びを見込んでいますので、ぜひご期待ください。

## 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

システナは、これまで主力事業を2度、3度と大きく変更するとともに、スクラップ&ビルドを遂行する施策により積極的な事業展開を図ってきました。これら施策をもって業績の向上につなげてまいりましたが、その方向性は変更せず今後も積極的な事業展開に取り組んでまいります。

今期はWithコロナがスタートし、スクラップ&ビルドのちょうど潮目にあたる期でもあります。また、新しい事業を創出しながら生まれ変わろうとしている潮目でもあります。当社を取り巻く事業環境は厳しい状況にあり、経済的・金融社会的にも難しい局面にありますが、私たち自らがグローイングアップできる未来性、将来性など、その夢は思いっきり大きいと信じて、引き続き事業に邁進してまいります。

なお、配当金につきましては、期末配当金として1株当たり4円を配当させていただきました。これにより、中間配当金4円と合わせまして、年間配当金は1株当たり8円となりました。

株主の皆様におかれましては、当社の取り組みと方向性にご理解いただき、今後とも末永いご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

システナの事業紹介 第1回

5回連載で、システナの事業を株主の皆様へお伝えする本特集。第1回目は自動運転・車載システムについて、ソリューションデザイン本部副本部長の村田一弘氏にお話を伺いました。

## 自動運転・車載システムへの取り組み

執行役員
ソリューションデザイン本部副本部長
**村田 一弘**

私が担当させていただいておりますソリューションデザイン事業は、大きく分けて自動運転・車載システム、社会インフラ関連システム、ネットビジネス、DXサービスの4事業を擁しています。今回焦点を当ててお話しさせていただく自動運転・車載システムは、すでに数年前からカーメーカー様の開発に携わらせていただいておりますが、その間、業界的にも様々な変化があり、エンジンを動かすハードウェア周りの制御から昨今のIVI(In-Vehicle Infotainment)の開発に至るまで、当社がシステムを手がける範囲も多岐にわたっています。

今後5年、10年といったタイムスパンで、自動車産業全体がこれまでの製造業からサービス業に変革していくと予想されています。それに伴い、これまで移動手段という用途にその機能を限定されてきた車は、外とつながることで様々なサービスを享受する方向へとシフトし、その具現化に取り組むカーメーカー様が増えてきています。併せて、2025年、2026年を目標にIVIシステムのアプリケーションプラットフォームをカーメーカー様自らが内製化しようという動きも出てきています。そうした流れのなかにあって、当社はエンジン周りだけでなく、車が外とつながる機能やコックピット周りのシステム開発を行ってきた実績が評価され、カーメーカー様から様々な引き合いをいただいております。

今後、自動運転をはじめとする技術の進歩によって安全・安心が制御的に完結するようになりますと、車内スペースはこれまでと大きく変わり、エンターテインメントを享受できる空間になります。そうしますと、家族だんらんの場になったり、外とコミュニティを組めるような場になったり、今、携帯電話を持ってコミュニケーションを取っているのと変わらない、まるで部屋の中のようなスペースが車内に生まれます。その実現を今カーメーカー様は目指しています。そこでは、各社、自社の車にどのように付加価値を付けていくのか、どのように他社とソフトウェアの差別化を図っていくのかという課題があります。さらには、外とつながることによって利便性が向上する反面、ハッキングによって車のシステムが乗っ取られたり、ウイルスにさらされる危険など、リスクもあります。こうした部分でも安全・安心を徹底していかなければなりません。

これまで車というものは、乗り心地、エンジン音、アクセルやブレーキの踏み心地、ハンドルの感触といった非常に感覚的な部分に技術力を注ぐことで、各社がそれぞれの特徴や優位性を前面に打ち出し、差別化を図ってきました。しかし、今後EVの普及や自動運転が実現する段階を迎える時には、カーメーカー様は製造業から脱皮してサービス業に変わります。それに伴い、今まで以上様々な用途にオペレーションシステムが使われることが予測されます。

私たちシステナとしましても、これまでと違った領域でお客様を喜ばすことができる新しいシステムが活躍する100年に1度の変革期の到来に心をときめかせています。

S 特集 システナのESG

# サステナビリティの取り組み

第2回 人材に向けた取り組み②

## 障がい者雇用におけるシステナの考えと取り組み

東京都ビジネスサービス株式会社※では、創業以来37年の間に培った障がいをもつ方の活躍を支援するノウハウやシステナの技術力をバックボーンにITを活用したコンサルティングサービスで様々な企業や団体を支援しております。今後は障がいをもつ方々の働く機会の創出と活躍の場の形成を社会全体に広げていきたいと考えています。

システナグループでは、Diversity, Equity & Inclusionの観点から障がいをもつ方の雇用において注力目標を掲げて取り組んでおります。

▶ **Diversity**(採用)

障がいをもつ方の民間企業における法定雇用率は2.3%ですが、システナグループではそれを上回る2.79%を達成しています(2023年6月1日報告時点)。

▶ **Equity**(公平)

障がいをもつ方々一人ひとりのキャリアパスを明確にし、得意分野を活かした様々な活躍の場を創出しています(アート、IT、マーケティング、営業、教育等)。

▶ **Inclusion**(活躍)

システナグループ外への外販をメインとする取り組みに注力することで、活躍指標とする障がいをもつ方1人当たりの売上が上昇しています。具体的には、取り組み当初1人当たり年60万円だった売上高がその後2年間で216万円まで向上し、当社の特例子会社である東京都ビジネスサービス株式会社は営業利益ベースで黒字を達成しました(2023年3月期)。

※東京都ビジネスサービス株式会社は、当社と東京都との共同出資により1986年に設立された第三セクター企業です。



# 会社の概況

## 会社概要 (2023年4月1日現在)

| | |
|---|---|
| 社名 | 株式会社システナ |
| 設立 | 1983(昭和58)年3月 |
| 資本金 | 15億1,375万円 |
| 従業員数 | 単体:4,506名<br>連結:6,047名 |
| 加盟団体 | 日本コンピュータシステム販売店協会(JCSSA)<br>情報サービス産業協会(JISA)<br>日本情報技術取引所(JIET)<br>JASPAR(Japan Automotive Software Platform and Architecture)<br>MONETコンソーシアム |

## 役員 (2023年6月21日現在)

| | |
|---|---|
| 代表取締役会長 | 逸見 愛親 |
| 代表取締役社長 | 三浦 賢治 |
| 取締役 | 田口 誠 |
| 取締役 | 藤井 宏幸 |
| 取締役 | 逸見 真吾 |
| 取締役 | 小谷 寛 |
| 取締役(社外) | 鈴木 行生 |
| 取締役(社外) | 小河 耕一 |
| 取締役(社外) | 伊藤 麻里 |
| 常勤監査役(社外) | 有田 敏二 |
| 監査役(社外) | 中村 嘉宏 |
| 監査役(社外) | 阿田川 博 |
| 監査役(社外) | 徳尾野 信成 |

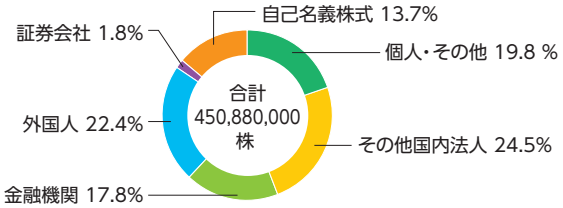
## 株式の状況 (2023年3月31日現在)

| | |
|---|---|
| 発行可能株式総数 | 1,478,400,000株 |
| 発行済株式の総数 | 450,880,000株 |
| 株主総数 | 15,700名 |

## 大株主 (上位10名) (2023年3月31日現在)

| 株主名 | 持株数 (株) | 持株比率 (%) |
|---|---|---|
| SMSホールディングス有限会社 | 104,097,200 | 23.08 |
| 株式会社システナ (自己株式) | 61,871,488 | 13.72 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) | 51,260,400 | 11.36 |
| 株式会社日本カストディ銀行 (信託口) | 21,160,800 | 4.69 |
| THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044 | 12,511,500 | 2.77 |
| システナ社員持株会 | 8,551,800 | 1.89 |
| SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT | 8,431,016 | 1.86 |
| BBH FOR FINANCIAL INV TRUST GRANDEUR PEAK INTERNATIONAL STALWARTS FD | 7,264,700 | 1.86 |
| NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE MONDRIAN INTERNATIONAL SMALL CAP EQUITY FUND, L.P. | 7,264,700 | 1.86 |
| THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042 | 5,060,120 | 1.12 |

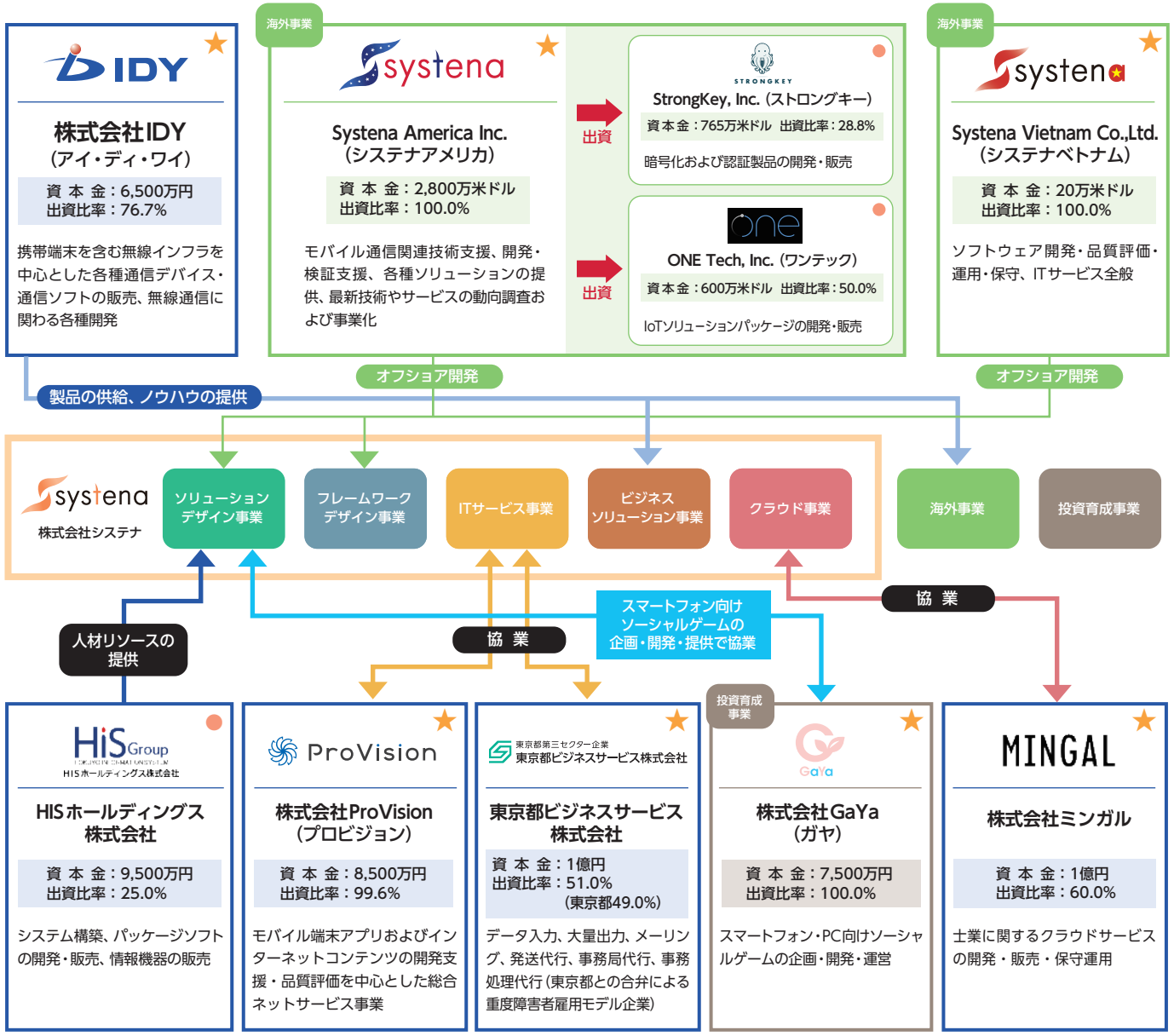
## 所有者別株式分布状況 (2023年3月31日現在)




# グループ会社概要 (2023年3月31日現在)

## グループ会社との連携による総合力の強化により、事業の拡大を図っています。

★印は連結子会社、●印は持分法適用関連会社



## 株主メモ

| | |
|---|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 定時株主総会　毎年3月31日<br>期末配当　毎年3月31日<br>中間配当　毎年9月30日<br>なお、その他必要がある場合は、あらかじめ公告して基準日を定めます。 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号<br>三井住友信託銀行株式会社 |
| 郵便物送付先 | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 電話照会先 | フリーダイヤル：0120-782-031<br>受付時間　平日9:00～17:00（銀行休業日を除く）<br>●株式に関するお手続き<br>https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/<br>よくあるご質問はこちら▶ |
| 上場金融商品取引所 | 東京証券取引所プライム市場 |
| 証券コード | 2317 |
| 公告方法 | 電子公告により、当社ホームページ（https://www.systena.co.jp/）に掲載いたします。ただし、電子公告を行うことができない事故、その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 |

### 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

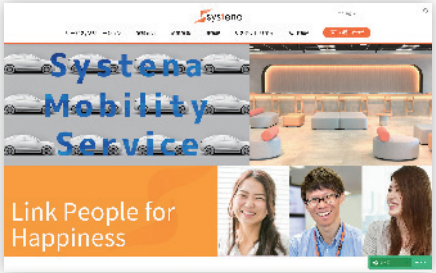
### 未払配当金の支払いのお申出先について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

**三井住友信託銀行株式会社 証券代行部**
フリーダイヤル：0120-782-031
受付時間　平日9:00～17:00（銀行休業日を除く）

詳細なIR情報をはじめ、サービスのご案内、コンプライアンスへの取り組みなど最新の情報をご覧いただけます。ぜひご利用ください。

**ホームページ**
https://www.systena.co.jp/




**Facebook**
https://www.facebook.com/systena.official

**Twitter**
https://twitter.com/systenaofficial

**Instagram**
https://www.instagram.com/systena_official

**TikTok**
https://www.tiktok.com/@systena_official

## 株式会社システナ


**本社**
〒105-0022 東京都港区海岸一丁目2番20号 汐留ビルディング14F
TEL: 03-6367-3840（代表）　FAX: 03-3578-3012（代表）

**横浜事業所**
〒220-8123 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号 横浜ランドマークタワー23F
TEL: 045-640-1401　FAX: 045-640-1461

**大阪支社**
〒530-0013 大阪市北区茶屋町19番19号 アプローズタワー18F
TEL: 06-6376-3537　FAX: 06-6359-7012

**名古屋事業所・名古屋営業所**
〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目23番13号 名古屋大同生命ビル13F
TEL: 052-526-2580　FAX: 052-526-2583

**札幌開発センター**
〒060-0042 札幌市中央区大通西三丁目6番地 北海道新聞社ビル北一条館4F
TEL: 011-208-1012

**福岡開発センター**
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東三丁目14番1号 T-Building HAKATA EAST 11F
TEL: 092-477-7401

**広島開発センター**
〒730-0015 広島市中区橋本町10番10号 広島インテス4F
TEL: 082-577-1100

**竹芝デザインスタジオ**
〒105-0022 東京都港区海岸一丁目9番18号 国際浜松町ビル2F

**川崎デザインスタジオ**
〒210-0024 川崎市川崎区日進町1番地14 JMFビル川崎01 5F

**神戸イノベーションラボ**
〒650-0032 神戸市中央区伊藤町119 大樹生命神戸三宮ビル3F

**松山イノベーションラボ**
〒790-0006 愛媛県松山市南堀端町5番地8 オワセビル9F

**京都イノベーションラボ**
〒600-8216 京都府京都市下京区東塩小路町601 NUP BUILDING 京都駅前2F



FSC www.fsc.org ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C171255

VEGETABLE OIL INK

この印刷物は、FSC®森林認証紙と植物油インキを使用して印刷されています。